

### 基礎条件

【人口】122人  
 【高齢化率】46%  
 【世帯数】55世帯  
 (うち1人暮らし22世帯)  
 【地域内の産業】 農業(米)  
 第1次:第2次:第3次  
 35%:13%:52%

### 【生活環境】

金融機関:毛原郵便局(紀美野町長谷毛原)  
 J A紀北かわかみ新城グリーン店  
 学 校:渋田小学校(東渋田)、笠田中学校(笠田東)  
 医療機関:県立医科大学附属病院紀北分院(かつらぎ町妙寺)  
 紀美野町長谷毛原診療所(紀美野町長谷毛原)  
 交 通:中核都市が通勤圏内  
 (橋本市まで約40分、和歌山市まで約1時間半)  
 かつらぎ町コミュニティバス(笠田駅まで7往復/日)

【宿泊施設】リバーサイド新城キャンプ場  
 たまゆらの里(紀美野町)

【町営住宅】4戸

【地域おこし協力隊】1名受入れ予定(H27秋頃~)

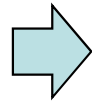
【本地域の特徴】

全国に先駆けた「山村留学」の取り組み

- ・里親制度による受け入れ
- ・過去30年間の卒業生は454人
- ※地区内の小学校はH24に廃校

### 問題認識

- ・地区内の小学校が廃校になり、従来どおりの山村留学の受け入れが困難。
- ・高齢化に伴い、地域行事等の運営が厳しい。



若い世代を地域に呼び込む必要がある。  
 移住者を受け入れるとともに、地域に関わる人を増やし、賑わいを取り戻したい。

### 1. 人を呼び込むきっかけづくり

- 山村留学卒業生同窓会
- 短期山村留学の受け入れ  
 (親子で山村留学、大人の山村留学)
- 移住者等と地域の交流イベント
- 大阪樟蔭女子大学との提携

### 2. 魅力アップに向けて

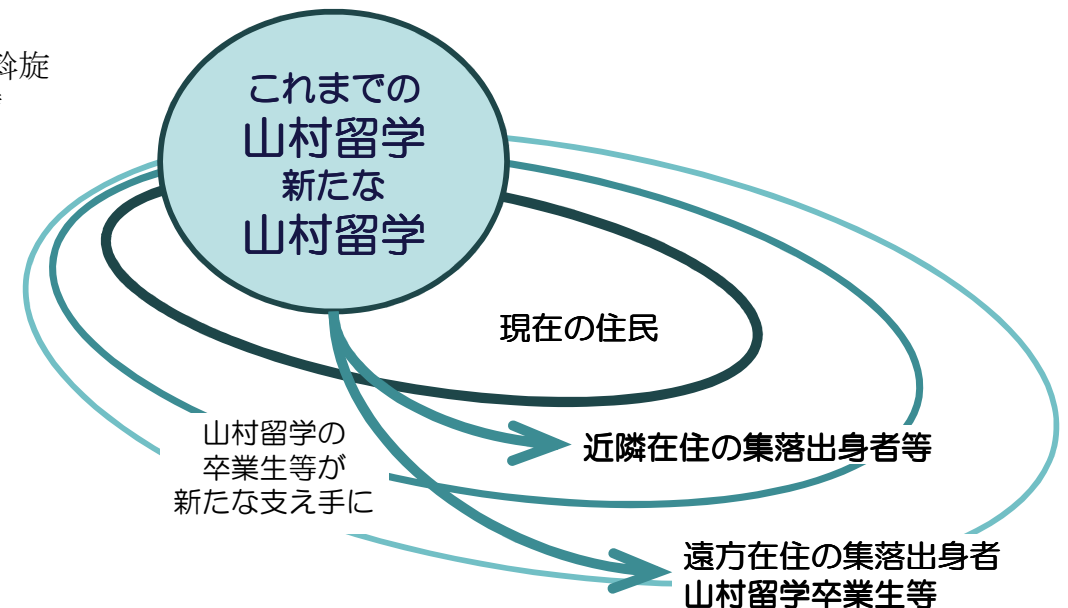
- 地域のみどころ看板、ガイドマップ
- 地域食材による健康レシピ、産品づくり  
 → 山村留学の呼び物メニューに
- 旧新城小学校を活用した拠点づくり【かつらぎ町】
- 遊休農地で野菜栽培  
 → 山村留学への食材提供、「ふるさと宅急便」
- 耕作放棄地を花畑に  
 → 地域の景観美化
- 安心な暮らしのための独居高齢者見守り体制の整備

### 3. 移住につなげる

- 空き家の調査
- 農地・空き家の斡旋
- お試し住宅整備  
 【かつらぎ町】

### 4. 継続するために

- 山村留学卒業生等への地域情報発信
- ネット等利用による地域産品販売  
 → 山村留学卒業生等に  
 買い支えてもらう仕組み



### 目指す姿

- 地域内に新たな移住者を呼び込む
- この地域に思い入れを持つ人を増やし  
 地域の担い手・支え手となる人の裾野を広げる

【事業期間】平成27年秋~平成30年3月  
 【事業主体】新城寄合会、かつらぎ町  
 【予 算】和歌山県過疎集落再生・活性化支援事業

全体事業費 24,977千円  
 うち県 8,039千円

### 現況

【人口】 691人 【集落数】 11集落 【高齢化率】 43%  
 【世帯数】 344世帯 【高齢者一人暮らし世帯】 133世帯  
 【施設等】 旧皆地小学校、旧四村川小学校、クアハウス熊野本宮、湯の峰温泉公衆浴場、湯の峰郵便局、湯峯駐在所

【主産業】 観光業（旅館・民宿・浴場）宿泊施設14軒・公衆浴場1軒  
 農業（水稻、野菜）、耕作面積：5ha  
 耕作放棄地：11ha、販売農家：3戸  
 【生活環境】 交通：路線バス（4業者）

学校：本宮小学校、本宮中学校（四村川小学校（H18廃校）、四村川中学校（H11廃校））  
 商店：3商店（食料品、日用品）  
 金融：湯の峰郵便局

### 問題認識

- ・国事業で新たな地域産品づくりを開始し、一定の収入を得ているが、生産技術、販売体制が確立できていない
- ・地域の歴史や伝統を継承する人材やツールが不足



- ・国事業の成果を活かした新たな地域産業を確立し自立を図る
- ・地域おこし協力隊と協働した移住者のなりわいをつくとともに伝統技術の継承による誘客を図る

### 国事業の成果【H26】

- ・あまご養殖場を整備し、販売を開始（販売先：地元宿泊施設）
- ・わさび田を整備し、沢わさびの栽培を開始
- ・直売所（四村朝市）の設置
- ・旧武住小学校を活用し出荷兼加工施設を整備（マコモ）
- ・名勝地案内看板の設置

### 新たな課題

- [生産]  
あまご：稚魚購入のため、生産コストが高い
- [加工]  
あまご：規格外品が発生し、収益性が悪い
- [販売]  
直売所：農産物の端境期は商品不足

[国事業で整備]



あまご養殖場



わさび田

### 地域の取り組み【H27-】

- [生産]  
・受精卵購入によるコスト低減  
・収穫まで期間（1年）の短い畑わさびを導入
- [加工]  
・加工施設を整備し、規格外品等の加工品製造（あまごの開き、甘露煮、わさび漬など）
- [販売]  
・加工品を直売所で販売



### 地域おこし協力隊と協働する取り組み【H28-】

- （定住に向けた収入対策）
- ・わさび、あまご等の生産技術の習得と継承
  - ・プレミアム和歌山の認証を目指した特産品づくり
  - ・音無紙の原材料を栽培し、紙すき技術を習得

### 目指すべき姿

- 地域産業（わさび、あまごなど）の創出等による地域が自立するしくみづくり
- 地域おこし協力隊や移住者へのなりわいづくり

### 【事業期間】 H27~28

【事業主体】 四村川活性化委員会（本宮町自治連絡協議会四村支部、四村川を考えるふれあいの会、NPO法人熊野本宮、NPO法人和が家、やったる会、湯の峰温泉女将の会）、田辺市

全体事業費：13,540千円  
うち県：5,434千円